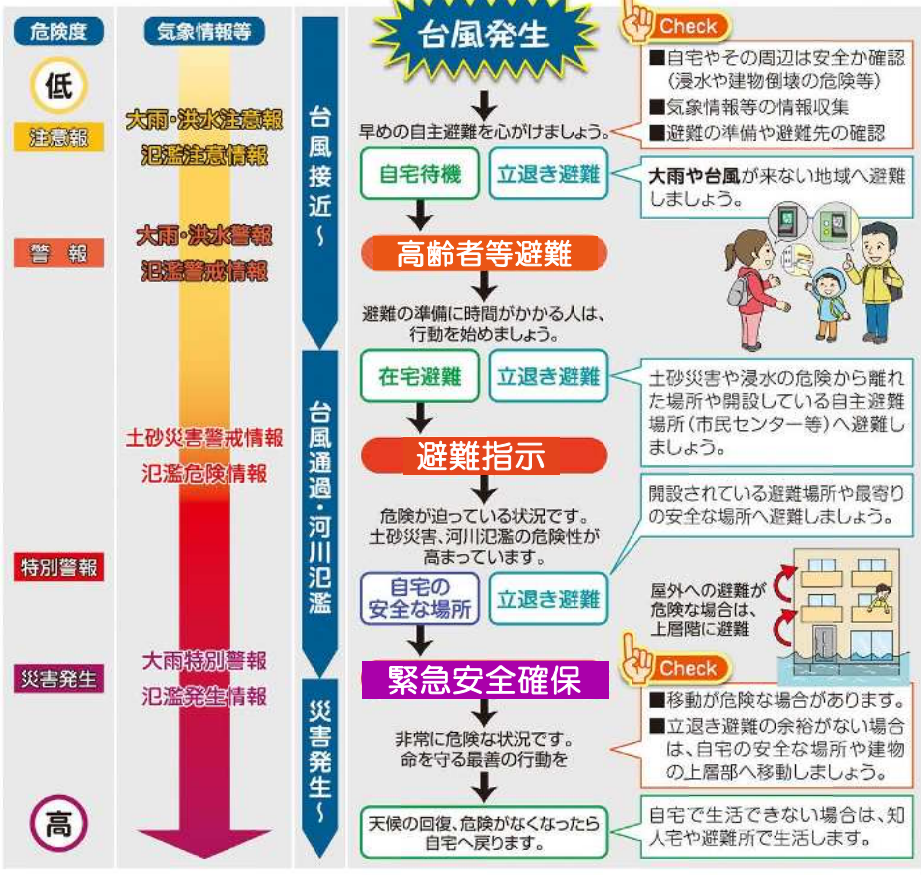


(5) 避難の流れ

台風や集中豪雨などから身を守るために、早めに避難してください。



- 1人での避難はできるだけ避けて
- 子どもから目を離さずに
- 子ども、高齢者、病気の方などは避難に時間がかかるので、早めの避難を

- マンホールや側溝に注意
- ひもで結べる運動靴で避難

- 土砂の流れる方向に対して直角に避難
- ・土石流は速度が速いため、流れを背にしていたのでは追いつかれてしまう

- 車が浸水したらすぐに車外へ
- ・水深が約15~20cm前後に達すると、車のエンジンが停止する可能性がある。
- ・水深と流速が増すと車ごと流される危険もある

屋内安全確保

災害時に身の危険が迫っている中で、安全な場所まで避難する時間がない、または、避難場所等への移動が危険を伴う、もしくは、困難な場合などは、2階以上に避難します。また、がけなどの危険な場所から最も離れた部屋へ避難しましょう。

屋外の移動は危険！
浸水による建物倒壊の危険がない場合は自宅の2階以上へ避難！
自宅の安全な場所へ避難(がけから離れた2階以上など)

- 夜間や急激な降雨で避難路上の危険箇所がわかりにくい。
- ひざ上まで浸水している。
- 水の流れる速度が速かったり、用水路などの位置が不明で転落のおそれがある。

- 家の中心部に近い、窓のない部屋や、がけなどの危険な場所から最も離れた部屋へ移動
- 窓、戸戸、カーテンを閉める
- 家の外の飛ばされそうなものや、流されそうなものを、あらかじめ室内に収納

(6) 避難行動

土砂災害警戒区域内にお住まいの方で、立退き避難ができない場合は、最低限、屋内安全確保を行ってください。

立退き避難

自宅などに危険が迫っている場合は、市が開設する避難場所、親戚知人宅などの安全な場所へ避難します。
 ※風水害時に避難勧告等を発令する場合は、開設する避難場所についても併せてお知らせします。

- 例えは**
- 堤防の決壊で家屋消失・浸水の危険がある地域に住んでいる。
 - 土砂災害の危険がある地域に住んでいる。
 - 子どもや高齢者など、家族に要配慮者がいる。



とにかく早期の避難！

屋外へ避難(指定避難場所や親戚宅・知人宅など)

！ 浸水しそうなら 家庭にあるものを利用して浸水防止

- 簡易水のうを利用して
 ゴミ袋を2重にして中に半分程度水を入れ、袋の口をしぼると簡易水のうが出来ます。
- 止水板を使用して
 水のうを長めの板等と組み合わせることで浸水を防ぎます。
- プランターやポリタンクを利用して
 プランターやポリタンクを並べてレジャーシートで包み、浸水を防ぎます。

